

精神科領域専門医研修プログラム

■専門研修プログラム名：大阪医科薬科大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム

■プログラム担当者氏名：金沢 徹文

住 所：〒569-8686 大阪府高槻市大学町 2-7

電話番号：072-683-1221

FAX : 072-683-4810

E-mail : psy044@ompu.ac.jp

■専攻医の募集人数：(12) 人

■専攻医の募集時期：毎年7月1日～8月31日を予定している。

■応募方法：履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。

宛先：〒569-8686 大阪府高槻市大学町 2-7

大阪医科薬科大学病院精神神経科医局秘書 TEL:072-683-1221 FAX:072-683-4810

担当者：木下真也(医局長)

■採用判定方法：科長・医局長らが履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I. 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより、精神科医療・精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

大阪医科薬科大学病院精神神経科は講座開設以来 60 年を超える歴史と伝統をもち、臨床から研究に至る幅広い領域において精神医学の発展に大きな功績を残してきた。現

在も日本の精神医療を牽引する存在として、医局員は幅広い領域で活躍している。

A) 大阪医科薬科大学病院（研修基幹施設）

基幹病院となる大阪医科薬科大学病院の精神神経科は、大学病院精神科として40床のベッド数を有し、閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分なスペースを確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応している。専攻医は入院患者の主治医となり、教員の指導を受けながら、看護・心理・リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法、クロザピン療法などの治療を柔軟に組み合わせ、最善の治療を行っていく。また、週1回行われる教授回診では指導医を中心としたグループディスカッションを行い、精神医学に関する広い知識を問われる。さらに、認知症、思春期症例、身体合併症、コンサルテーション・リエゾン、難治性精神疾患の特殊療法（m-ECT、クロザピン）など、サブスペシャリティとして多様な選択肢が活発に活動している。このように研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけ、最先端の情報に触れることが可能である。また、地方会などへの定期的な発表や全国大会や国際学会への参加や発表を通じて研究・学会発表についても指導を受ける。指導医は6名である。

B) 研修連携施設

本施設群は17の施設から成り立っている。1年目は研修基幹病院で、2,3年目は研修連携施設をローテートして研修する。専攻医は年4~6名を予定している。連携施設は一般精神科臨床を専門とする機関で、以下専門治療や各病院の特色について述べる。

① 新阿武山病院

アルコール依存症の専門入院病棟を有する北大阪で唯一の病院である。また認知症疾患医療センターとしての役割も有しており認知症症例を多数経験することができる。急性期医療病棟も稼働しているため幅広い患者の診療に携わることが可能である。指導医は7名である。

② 阪南病院

南大阪で最大のスーパー救急病棟（3病棟168床）を有しており、年間2500名以上の入院者数がある大型の施設である。救急対応に加えて、児童精神科病棟やメンタルケア病棟など多彩な専門治療を展開している。指導医は10名である。

③ 瀬田川病院

認知症疾患医療センターに指定されており、豊富な症例を経験することが可能である。また精神科デイケアやショートケアなどを通じて地域での生活支援のスキルを学ぶことが可能である。指導医は6名である。

④ 丹比荘病院

精神科臨床一般を学ぶことが可能で、併設されたグループホームや訪問看護ステーションなどとの連携を通じて社会復帰や地域生活支援などの業務を幅広く経験

することができる。また、関連クリニックを都心部に展開していることから外来診療全般についての経験も可能となる。指導医は6名である。

⑤ **藍野花園病院**

急性期から療養期、社会復帰まで一貫した精神科医療・福祉サービスを同一施設で経験することが可能な施設と成っている。作業療法やデイケア、訪問看護などを利用しながら精神科リハビリテーションを経験することができる。指導医は7.5名である。

⑥ **小曾根病院**

複数のグループホームやデイケアセンター、就労支援センターなどを展開しており、豊富な医療資源を駆使して精神科医療を行っている。指導医は3名である。

⑦ **新生会病院**

アルコール依存症の専門期間として南大阪で信頼を集めている。近隣の患者のみならず、その医療技術を求めて遠方からも多くの患者が訪れる病院と成っている。指導医は3名である。

⑧ **ねや川サナトリウム**

精神科スーパー急性期病棟を展開している地域の中核施設であり、病院周辺に多数の関連施設を有している。指導医は1名である。

⑨ **新淡路病院**

淡路島の洲本市にある民間病院で救急病棟での入院の受け入れや、援護寮などを含めた様々な地域に密着した生活支援施設を有している。指導医は3名である。

⑩ **赤穂仁泉病院**

兵庫県赤穂市にある病院で複数のグループホームやデイケアセンターなどを展開しており、地域における精神科医療の中核的役割を担っている。指導医は3名である。

⑪ **藍野病院**

総合病院精神科病棟として600床を有し、認知症と身体合併症を対象としている。身体疾患を有する精神疾患患者を受け入れることが可能である貴重な病院である。指導医は2.5名である。

⑫ **稲田クリニック**

大阪医科薬科大学病院の近くにあり、職場のメンタルヘルスへの対応や不安症の専門治療に力を入れ、リワークプログラムや不安症の認知行動療法などを実施している診療所である。指導医は1名である。

⑬ **水間病院**

大規模型の精神科病院で、大阪府南部の地域精神科医療の中心的役割を担っている。認知症疾患医療センターに指定されており、豊富な症例を経験することが可能である。指導医は4名である。

⑭ **金岡中央病院**

大阪府堺市に位置する単科の精神科病院で、統合失調症を中心とした精神疾患全般

に対応している。認知症治療病棟（60床）とアルコール専門病棟（48床）があり、地域の認知症医療やアルコール関連疾患の医療を担っている。指導医は2名である。

⑮ 福岡大学医学部精神医学教室（福岡大学病院）

大阪医科薬科大学病院と同じく特定機能病院であり、身体合併症などを含めた様々な疾患を経験することが可能である。指導医は7名である。

⑯ いわくら病院

かつて「日本のゲール」と称された京都市北部、岩倉の地にあり、開放医療を行っている民間単科精神科病院である。病院でしか果たせない機能である入院治療を地域に開き、地域精神医療の一翼を担うことを進めてきた。その結果、病病・病診連携はもちろん、さまざまな地域資源との連携が進み、紹介率も高く、年間1,000人以上の新規入院がある。指導医は8名である。

⑰ 長岡病院

京都府長岡市にある単科精神科病院で、京都府南部精神科救急医療システムに参加しており、精神科救急も経験できる。また、財団内にある多機能型事業所（就労継続支援B型事業所）、地域活動支援センター、障害者就業・生活支援センターと連携し、地域医療、福祉、就労支援なども経験できる。指導医は3名である。

専攻医はこれらの施設をローテーションしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能である。さらに、児童思春期や認知症、アルコール依存症の専門医療機関、多くの地域の単科精神科病院とも連携しており、希望に応じてこれらの施設での研修を行うことにより、さらに幅広い知識を習得することが可能である。

大阪医科薬科大学病院精神神経科は臨床的知見に立脚した科学的診療態度を特色とし、さまざまなライフステージに応じたきめ細かい臨床を特徴とする教室である。大阪府のみならず近畿圏や全国で活躍する臨床家の輩出のみならず、研究面でも多くの成果を残してきている歴史がある。精神疾患は、医学だけで語ることができる学問領域でなく、心理学、社会学、哲学など様々な次元の先端的な知識が必要とされる。研究の分野で見れば、発展の著しい分子遺伝学、薬理学、脳科学を味方にしながら、新しい知見がますます増えている。時代にあった診療・研究に対する科学的姿勢を核に据えながら、積み重ねられた知見と共に患者さんと向き合うことができる診療医をこれからも輩出していくプログラムとなる。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数・症例数：（ 79 ）人

● 昨年1年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	7878	1970
F1	5119	1104
F2	19626	7779
F3	11763	1941
F4 F50（成人）	7023	487
F4 F7 F8 F9 F50 （児童・思春期）	1049	151
F6（成人）	463	81
その他	2447	329

2. 連携施設名と各施設の特徴

A) 研修基幹施設

- 施設名：大阪医科薬科大学病院
- 施設形態：私立大学附属病院
- 院長名：南敏明
- プログラム統括責任者氏名：金沢徹文
- 指導責任者氏名：金沢徹文
- 指導医人数：（ 6 ）人
- 精神科病床数：（ 40 ）床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	905	51
F1	27	15
F2	245	121

F3	502	118
F4 F50 (成人)	463	40
F4 F7 F8 F9 F50 (児童・思春期)	298	4
F6 (成人)	27	2
その他	1520	34

● 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

基幹病院となる大阪医科薬科大学病院の精神神経科は、大学病院精神科として40床のベッド数を有し、閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分なスペースを確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応している。専攻医は入院患者の主治医となり、教員の指導を受けながら、看護・心理・リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法、クロザピン療法などの治療を柔軟に組み合わせ、最善の治療を行っていく。また、週1回行われる教授回診では指導医を中心としたグループディスカッションを行い、精神医学に関する広い知識を問われる。さらに、認知症、思春期症例、身体合併症、コンサルテーション・リエゾン、難治性精神疾患の特殊療法（m-ECT、クロザピン）など、サブスペシャリティとして多様な選択肢が活発に活動している。このように研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけ、最先端の情報に触れることが可能である。また、地方会などへの定期的な発表や全国大会や国際学会への参加や発表を通じて研究・学会発表についても指導を受ける。指導医は7名である。

B) 研修連携施設

① 新阿武山病院

- 施設形態：私立病院
- 院長名：岡村武彦
- 指導責任者氏名：岡村武彦
- 指導医人数：(7) 人
- 精神科病床数：(273) 床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	3229	75
F1	3901	288
F2	4147	217
F3	2021	47
F4 F50（成人）	720	9
F4 F7 F8 F9 F50 （児童・思春期）	0	0
F6（成人）	111	3
その他	407	8

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は単科精神病院で、5つの機能別に分かれた病棟（精神科急性期治療病棟、精神科一般病棟、精神療養病棟、認知症疾患治療病棟、アルコール病棟）およびデイケア、作業療法などのリハビリテーション施設を有している。精神科急性期治療病棟では、主に統合失調症や気分障害などの精神疾患の救急・急性期の治療を行っており、精神科一般病棟、精神療養病棟では亜急性期～慢性期の精神疾患の治療にあたっている。認知症疾患治療病棟では、認知症疾患のBPSDなどの治療とリハビリテーションを行っている。アルコール病棟では、アルコール依存症患者の解毒治療に加え、身体疾患の管理や独自の治療・教育プログラムによる治療を実施している。

このように、急性期から亜急性期・慢性期における様々な精神疾患の治療に幅広く対応している。また、主治医、看護スタッフ、ソーシャルワーカー、臨床心理士、作業療法士、管理栄養士などによるチーム医療を重視しており、病院内での治療のみならず、断酒会などの自助グループやスポーツクラブ活動などを支援することで当事者の地域でのリカバリーを多種職で推し進めている。

② 阪南病院

- 施設形態：私立病院
- 院長名：黒田健治

- 指導責任者氏名：副院長 横田伸吾
- 指導医人数：(10) 人
- 精神科病床数：(690) 床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1165	293
F1	142	95
F2	1685	560
F3	1738	602
F4 F50（成人）	1201	117
F4 F7 F8 F9 F50 （児童・思春期）	937	131
F6（成人）	55	31

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

地域の基幹病院として救急、急性期、ストレスケア、認知症治療、児童精神など精神領域全ての疾患に即応できる体制を整えている。病院全体では任意入院率 15%弱と、入院患者様のほとんどが医療保護入院など、非自発的入院である。重篤な精神疾患を持つ方も多く、m-ECT、クロザリル処方など、治療抵抗性の高い患者様への治療も積極的に行っている。新規入院患者様ではF3圏（気分、感情障害）や、F1圏（精神作用物質による精神および行動の障害）の患者様など易怒性、攻撃性の強い患者様も一定数おられる。児童精神科病棟は中学3年生までを対象に30床の病床を運営している。発達に課題のあるお子さんや育児放棄や虐待事例もあり、公的機関と連携しつつ医療実践している。

③ 瀬田川病院

- 施設形態：私立病院
- 院長名：青木浄亮
- 指導責任者氏名：青木浄亮
- 指導医人数：(6) 人

- 精神科病床数：(282) 床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	513	105
F1	0	0
F2	20	30
F3	33	22
F4 F50（成人）	12	0
F4 F7 F8 F9 F50 （児童・思春期）	0	0
F6（成人）	2	0
その他	0	0

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は滋賀県内の精神科単科病院であり、県指定の認知症疾患医療センターおよび96床の認知症治療病棟、精神科病棟（132床）で、認知症診療を中心とした老年期精神科疾患の診療を行っています。

認知症は、疾患の進行とともに、環境要因に伴って、症状やケアのニーズが大きく変化していきます。そこで、医療や福祉、行政等に関わる様々な職種が必要な情報を共有し、適切な役割分担のもと、認知症の人と家族の生活全体を支えていくことが必要となります。

当院では、疾患に対する医学的専門知識や診療技能の習得を目指すとともに、認知症の人と家族の支援に携わる医療専門職として、院外の多職種協働の意義と理解、現場見学も含めた知識の習得を図ります。また、院内多職種の現場を実際に体験し、熱意まで理解することを目的とします。地域の多職種との認知症研修会も行っています。また、滋賀県精神科救急医療システム事業における輪番病院にも指定されており、自傷他害を含む急性期精神科疾患にも対応しています。

④ 丹比荘病院

- 施設形態：私立病院
- 院長名：池谷俊哉
- 指導責任者氏名：池谷俊哉
- 指導医人数：(6) 人
- 精神科病床数：(310) 床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	225	65
F1	80	48
F2	610	307
F3	482	119
F4 F50（成人）	313	34
F4 F7 F8 F9 F50 （児童・思春期）	14	0
F6（成人）	21	7
その他	87	11

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
 一般精神科にくわえ、近年増加傾向にある不安症、感情障害、認知症、児童思春期精神疾患などの特殊性のある疾患に対しても対応できる精神科的総合病院を目指している。病床数は310床であるが、医師が一人一人の患者とゆっくり向き合いながら診療を行えるよう、常勤医12名、非常勤医師11名の合計23名の多くの医師を確保している。23名の医師のうち精神保健指定医16名、精神科専門医13名と経験豊かな医師が勤務している。時間的に一人一人の患者に時間をかけて接するだけでなく、これら医師が独自の専門領域を有し、それぞれの得意分野で新しい薬物療法や治療技法を学ぶために学会や研究会に積極的に参加し、新しい知見に触れ診療スキルの向上に努めている。このような専門性を活かすために、近年のストレス社会の中で増加しているパニック症、職場のメンタルヘルスに関する専門外来、男性の医師には相談し難いという患者には女性外来、そして精神科の中では最も専門性が高く、まだまだエキスパートが少ない児童思

春期外来などの専門外来を開き、地域のみならず大阪市からも多数の患者が受診している。そして平成24年1月からは、物忘れ外来を開始し、また団塊の世代が退職し、今後増加していくと思われるアルコール依存症に対する入院加療も行っている。

⑤ 藍野花園病院

- 施設形態：私立病院
- 院長名：清水信夫
- 指導責任者氏名：清水信夫
- 指導医人数：(6+0.5×3) 人
- 精神科病床数：(606) 床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	660	378
F1	275	221
F2	8842	4558
F3	2711	432
F4 F50（成人）	774	31(12)
F4 F7 F8 F9 F50 （児童・思春期）	661(8)	118(1)
F6（成人）	0	1
その他	132	533

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
近郊都市茨木の中心部からさほど遠くない場所にあるという特性からか、最近
は受診患者の多様性が増してきている。抗精神病薬だけでなく睡眠薬や抗パー
キンソン薬などについても処方の軽量化を進めてきており、とりわけ非定型抗
精神病薬については本格的に導入されて以来処方の単純化を診療方針の前面に
打ち出している。ちなみに、統合失調症の入院患者に対する抗精神病薬の単剤
化率57%強は、全国300床以上の精神科病院の中で第一位を誇っている。

統合失調症患者だけでなく双極性障害、神経症圏の疾患、発達障害など、外来・入院ともに多彩な疾患・多彩なステージの症例を経験することが可能である。長期入院患者の地域移行において病院近隣に居住する患者が多く、必然的に往診や訪問看護にも力点を置いている。多職種医療チームによる24時間電話相談・訪問を主として近隣に居住する患者を対象に実施しており、退院後の生活の不安を軽減する努力は患者から好評を得ている。

また、周辺地域の老年期精神障害（認知症を含む）の患者の要請も増加しつつあり、診療だけでなく認知症対策（主として予防）のための地域一体となつての啓発活動を開始している。昨年に比して、特に、高齢者の受診、入院が増加している。そのためF0圏の患者さんが増加している。

⑥ 小曾根病院

- 施設形態：私立病院
- 院長名：西元善幸
- 指導責任者氏名：臼井節哉
- 指導医人数：（ 3 ）人
- 精神科病床数：（ 525 ）床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	83	158
F1	5	4
F2	645	489
F3	298	118
F4 F50（成人）	121	28
F4 F7 F8 F9 F50 （児童・思春期）	59	20
F6（成人）	13	6
その他	204	36

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

統合失調症、うつ病、パニック障害、てんかん、神経症など、精神疾患全般の診療を行うほか、認知症の治療の外来日も設けている。また近隣の精神科クリニックとも連携して、外来から入院、社会復帰に至るまで、医療と福祉の両面で患者様をサポートしている。

⑦ 新生会病院

- 施設形態：私立病院
- 院長名：和気浩三
- 指導責任者氏名：和気浩三
- 指導医人数：(3) 人
- 精神科病床数：(148) 床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	1087	575
F2	0	0
F3	0	0
F4 F50（成人）	0	0
F4 F7 F8 F9 F50 （児童・思春期）	0	0
F6（成人）	0	0
その他	0	0

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

アルコール依存症の専門病院であり、女性、高齢者など様々なアルコール依存症の症例を経験できる。また、アルコール依存症に合併する身体合併症の管理、自助グループや地域の社会資源との連携による地域支援を学ぶことができる。

⑧ ねや川サナトリウム

- 施設形態：私立病院
- 院長名：長尾喜一郎
- 指導責任者氏名：長尾喜一郎
- 指導医人数：(1) 人
- 精神科病床数：(267) 床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	464	93
F1	28	5
F2	562	221
F3	501	57
F4 F50（成人）	377	15
F4 F7 F8 F9 F50 （児童・思春期）	104	11
F6（成人）	14	1
その他	23	10

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
精神科救急入院料1算定病棟（60床）、認知症治療病棟1（59床）、精神療養病棟（104床）、精神一般病棟（44床）の5病棟を有し、様々な精神疾患に対応している。特に精神科救急入院料1算定病棟（いわゆるスーパー救急）を運営し、大阪府精神科救急、身体合併症支援にも参画し、北河内地区における精神科救急拠点病院として機能している。また、循環器内科専門医が常勤し、滝井救命救急センター医師が週1回半日、大学病院血液内科専門医が週1日、放射線科にも大学教授でもある専門医が読影しており、精神科単科でありながら身体疾患にも対応できる体制を整えている。修正型電気けいれんを実施し、同法人医療機関である長尾会クリニックデイケアではデイケア、訪問看護ステーションを運営しており、同法人内には自立訓練事業所、グループホームを有し、地域移行・地域定着支援についても積極的に取り組んでいる。また、認知症初期集中支援事業の寝屋川市より委託を受け、地域での認知症支援の関わり強化を始めている。

⑨ 新淡路病院

- 施設形態：私立病院
- 院長名：木戸上洋一
- 指導責任者氏名：堀貴晴
- 指導医人数：(3) 人
- 精神科病床数：(240) 床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	282	72
F1	74	14
F2	5454	129
F3	1410	17
F4 F50（成人）	647	8
F4 F7 F8 F9 F50 （児童・思春期）	79	0
F6（成人）	1	2
その他	315	18

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

淡路島という特殊な二次医療圏に位置している唯一の精神科単科病院であり、240床の入院病床を持つ。島内で入院を必要とする患者さんのほとんどが当院へ来院するため、種々の精神疾患や入院形態を経験することが可能である。またリハビリテーションとして、デイケアやナイトケア、グループホーム、訪問看護ステーションなど、同一法人の関連施設を利用し、その知識を身に着けることができる。さらに地域医療として、保健福祉事務所との協働や障害者支援センターとの連携が密であるため、その役割や仕組みについても理解を深めることができる。

このように基幹施設では経験を積むことが難しい分野において、多数の症例に

接し、様々な精神医療や地域医療の形態を研修することが可能である。

⑩ 赤穂仁泉病院

- 施設形態：私立病院
- 院長名：深井光浩
- 指導責任者氏名：深井光浩
- 指導医人数：(3) 人
- 精神科病床数：(247) 床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	93	34
F1	23	8
F2	123	76
F3	155	20
F4 F50（成人）	143	8
F4 F7 F8 F9 F50 （児童・思春期）	6	1
F6（成人）	2	0
その他	87	1

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
赤穂市を中心に、兵庫県南西部から岡山県東部までの広域の精神科医療を請け負う精神科専門病院である。特徴として、入院医療はもとより、特に精神障害者の就労、社会復帰に力を注いでいる。また、近隣に精神科医療資源が乏しいこともあり、岡山県備前市にサテライトクリニックを整備し、兵庫県佐用町、上郡町、岡山県備前市、和気町などに訪問看護を実施するなど、いわゆる僻地精神科医療の最前線を担当している。

⑪ 藍野病院

- 施設形態：私立病院

- 院長名：川島文雄
- 指導責任者氏名：川島文雄
- 指導医人数：(2.5) 人
- 精神科病床数：(600) 床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	425	362
F1	5	20
F2	35	120
F3	52	27
F4 F50（成人）	12	3
F4 F7 F8 F9 F50 （児童・思春期）	12	19
F6（成人）	0	1
その他	0	0

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

総合病院であり、さらに精神科病棟（認知症病棟、精神科合併症病棟）を有している（身体科病床：369床 認知症病床：501床 精神科合併症病床：99床）。

このため、対象となる疾患は広汎であり、研修の充実が可能である。

認知症病棟以外の精神科病棟は、いわゆる「合併症病棟」であり、身体疾患を抱えた精神科患者が対象である。この精神科合併症病棟において、身体科医と共観の形で精神医学的診断と治療に携わる。身体科の病棟において診察の依頼を受けた患者について、精神医学的診断と治療に携わる。その場合、意見を述べるに止まらず、共観医として治療に当たることも多い。

患者を取り巻く人間関係についても着目し、治療に役立てる。対象精神疾患の例としては、以下の通りであり、多岐に亘る。①統合失調症②気分障害③器質性精神障害（認知症、せん妄、神経疾患に伴うものなど）④神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害（摂食障害を含む）⑤発達障害⑥糖尿病患者、血液透析患者、終末期患者⑦児童・思春期の精神障害など。

CT、MRI 等の画像診断、EEG、脳脊髄液検査などを活用する。指導医の関与のもと、定期的なカンファレンスを施行する。他科、リハビリテーション科でのカンファレンスに参加する。臨床心理科と連携し、適切な分析と治療を行う。

⑫ 医療法人悠仁会 稲田クリニック

- 施設形態：私立診療所
- 院長名：稲田泰之
- 指導責任者氏名：稲田泰之
- 指導医人数：(1) 人
- 精神科病床数：(0) 床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	6	0
F1	9	0
F2	69	0
F3	1959	0
F4 F50（成人）	1144	0
F4 F7 F8 F9 F50 （児童・思春期）	74	0
F6（成人）	0	0
その他	0	0

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は年間 700～800 名ほどの新患を受け入れている精神科診療所である。気分障害および不安症を主診断とする患者が大多数を占め、地域ではいわゆる軽症特化型の診療所としての役割を担っている。

当院の特徴の一つは、全患者に占める就労者の割合が大きいことであり、職場のメンタルヘルス不調への対応を行うことが多い。従って、産業医と連携しながら治療を進めていく症例など、産業精神保健に関する症例を多く経験することができる。また、パニック症、社交不安症などの不安症に対する専門治療を行なっ

ていることも特徴の一つであり、同疾患については、他の精神科医療機関から紹介や転医の形で当院を受診する患者が多い。また、近年では、向精神薬処方 of 適正化を目的とした近隣のかかりつけ医療機関からの紹介にも応じ、特にベンゾジアゼピン系薬剤の減薬、断薬にも積極的に取り組んでいる。

上記のような患者層のニーズに対応するため、当院では精神科ショートケアの枠組みを用いて、リワークプログラムやパニック症、社交不安症の認知行動療法を実施している。従って、薬物療法に加え、認知行動療法を中心とした心理社会的な治療や、心理師や精神保健福祉士などの他職種との協働の実際についても経験することが可能である。

その他、大阪医科薬科大学病院の門前に位置していることや、日本総合病院精神医学会指導医が在籍していることもあり、同病院の他科からの紹介を受けて来院する患者も多い。また、地域の単科精神科病院とも連携しており、統合失調症圏や認知症、依存症等の患者に対してはトリアージ機能を担い、適切なリファーを行なっている。このように、地域の様々な医療機関との連携体制の中で、精神科診療所が果たしている役割を網羅的に経験することができるのが、当院の強みである。

⑬ 水間病院

- 施設形態：私立病院
- 院長名：河崎建人
- 指導責任者氏名：河崎建人
- 指導医人数：(4) 人
- 精神科病床数：(541) 床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	226	288
F1	13	41
F2	153	273
F3	123	49
F4 F50（成人）	54	4
F4 F7 F8 F9 F50	0	0

(児童・思春期)		
F6 (成人)	3	4
その他	68	8

● 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

水間病院は、昭和 34 年 8 月の創設以来、大阪府南部の地域精神科医療の中心的役割を担い、地域のニーズに応えるべく、急性期から慢性期まで、精神一般病棟・精神療養病棟・認知症治療病棟において、幅広く精神疾患の治療に取り組んでおり、精神科救急にも参画している。

高齢化社会にともなう認知症疾患対策にも積極的に取り組み、大阪府認知症疾患医療センターとして、認知症の専門医療相談・鑑別診断・治療方針選定等も行っており、関連施設の介護老人保健施設・介護老人福祉施設等での研修も可能である。

社会復帰については、グループホーム・支援センター・共同住居等の事業も行っており、社会復帰促進にも力を注いでいる。さらに精神科病院としては、全国的にも数少ないと思われるが、理学療法士が多数在籍している医療機関として積極的にリハビリテーションにも取り組んでいる。その他に当グループでは、河崎会看護専門学校・大阪河崎リハビリテーション大学を有し、基本の理念に医療従事者を積極的に育成する姿勢が根付いている。

⑭ 金岡中央病院

- 施設形態：私立病院
- 院長名：高野 照起
- 指導責任者氏名：香林 正仁
- 指導医人数：(2) 人
- 精神科病床数：(471) 床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	32	57
F1	276	124
F2	271	57
F3	89	20

F4 F50 (成人)	22	2
F4 F7 F8 F9 F50 (児童・思春期)	6	4
F6 (成人)	0	1
その他	0	0

● 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

統合失調症を中心とした精神疾患全般に対応しています。

その中でも認知症治療病棟（60床）とアルコール専門病棟（48床）があり、特にアルコール医療は、大阪市、堺市の人口約300万人に対しての入院機能を備え、その中心となるべく努力しています。

又、グループホームを3箇所（定員19名）運営し、地域支援室を中心に訪問看護等にて入居者をはじめ地域で生活する方々の支援を実践しています。

⑮ 福岡大学病院（福岡大学医学部精神医学教室）

- 施設形態：私立大学病院
- 院長名：岩崎昭憲
- プログラム統括責任者氏名：川寄弘詔
- 指導責任者氏名：川寄 弘詔
- 指導医人数：（ 7 ）人
- 精神科病床数：（ 60 ）床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	153	18
F1	7	9
F2	77	48
F3	103	53
F4 F50 (成人)	216	56
F4 F7 F8 F9 F50	52	41

(児童・思春期)		
F6 (成人)	39	1
その他	149	0

● 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

福岡大学病院は915床（うち精神科60床）を有する特定機能病院であり、「あたたかい医療」という基本理念を掲げ、救命救急センターでの3次救急の受け入れや地域のがん診療連携拠点病院としてがん診療など、地域の中核病院として社会のニーズに応えるよう医療活動を行っている。

当教室は伝統的に精神分析的療法などの精神療法を学ぶ環境が充実しており、地域精神医療に根ざした患者中心の臨床精神医療を徹底している。また大学病院における精神神経科の役割を果たすために、身体合併症患者のリエゾン・コンサルテーション、緩和ケアチームや認知症疾患医療センターへの参画、救命救急センターと協力した自殺企図者への介入、産婦人科や小児科と協同した周産期母子、小児や児童思春期（虐待児とその家族、発達障害、ADHDなど）への対応といった幅広い治療活動も行っている。

⑩ 医療法人稲門会 いわくら病院

- 施設形態：民間単科精神科病院
- 院長名：岩崎昭憲
- プログラム統括責任者氏名：蓑島 豪智
- 指導責任者氏名：蓑島 豪智
- 指導医人数：（ 8 ）人
- 精神科病床数：（ 378 ）床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	158	200
F1	480	237
F2	423	333
F3	369	169
F4 F50	159	44

F7 F8 F9	83	15
F6	12	7
その他	20	4

● 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

平安時代から精神障がいをもった人たちと地域でともに在った、かつて「日本のゲール」と称された京都市北部、岩倉の地にあり、開放医療を行っている民間単科精神科病院である。精神病床 378 床（精神一般病棟 4 病棟 228 床，精神科救急病棟 48 床，アルコール依存症治療病棟 42 床，認知症治療病棟 60 床）同敷地内に介護医療院 60 床がある。精神科救急病棟の一部，認知症治療病棟，BPSD 対応病棟以外はサポート方式を用いた開放病棟である。病院でしか果たせない機能である入院治療を地域に開き、地域精神医療の一翼を担うことを進めてきた。その結果、病病・病診連携はもちろん、さまざまな地域資源との連携が進み、紹介率も高く、年間 1,000 人以上の新規入院がある。

同法人内に 3 つの訪問看護ステーションを有し、現在 4 つめのステーション立ち上げに向け準備中である。就労継続支援 B 型，相談支援事業所もある。保健センターでの精神保健福祉相談にも可能な限り協力している。

「WRAP（元気回復行動プラン）」，当事者研究，MCT（メタ認知トレーニング）などの当事者主体のセルフ・ヘルプ、ピア・サポートの視点でリカバリーに役立つプログラムも行っている。利用者自身が病気をもちながら生きていく中で積んできた「専門家」といってもよい貴重な経験を共有することで、利用者だけでなくスタッフも互いに学び合い、自己および相互の理解を深める機会にしている。それでもなお残ってくるものこそが医療の専門家として支援しなければならないものであり、その点での医療の提供を慎ましく適切に行うという考えを推し進めていこうとしている。入院治療において病棟看護はもちろん、管理栄養士，ケースワーカー，作業療法士，事務員，薬剤師，臨床心理士など多職種での検討、関わり、さらに地域支援者との協働も行いやすい環境となっている。

専門治療としては、以下のことに取り組んでいる。京都府で唯一のアルコール依存症専門治療病棟（急性期治療病棟）を有し、地域の自助グループや公的機関、精神科だけでなく一般身体科の病院・診療所とも連携してアルコール依存症の専門治療を行っている。認知症治療病棟を有し、認知症専門医もいる。認知症に対する入院治療は BPSD による不可避なものにとどめ往診・在宅診療や訪問看護を可能な限り提供して、地域資源と連携して地域生活を支援することを模索している。精神救急病棟において、摂食障害の入院治療に取り組んでいる。摂食障害の入院治療機関が少ない状況下、一定の貢献を果たしている。治療抵抗性統合失調症に対するクロザピンの登録医療機関である。

高齢化に伴う身体合併症への対応も、常勤各 1 名の呼吸器内科医，消化器内科医、

非常勤の一般身体科医師と協力しながら院内で対応しているほか、適宜一般病院と密に連携しながら行っている。

移動支援の利用、ピアサポーターや外部の支援センター、相談支援事業所の協力を得て、長期入院者の地域移行支援にも積極的に取り組んでいる。

月1回医局有志の症例検討会がある。ダイアログを意識した関わりの場面、メンタライジングを学ぶ機会もある。

● 一般財団法人 長岡記念財団 長岡病院

● 施設形態：民間単科精神科病院

● 院長名：畑典男

● プログラム統括責任者氏名：畑典男

● 指導責任者氏名：畑典男

● 指導医人数：(3) 人

● 精神科病床数：(388) 床

● 疾患別入院数・外来数（年間）

疾 患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	150	126
F1	17	6
F2	649	322
F3	998	211
F4 F50（成人）	479	59
F4・F7・F8・F9・F50 （児童・思春期）	367	29
F6（成人）	8	3
その他	40	3

● 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

1) 総合的な研修を積むことができる。

◇ 精神科急性期病棟（ストレスケア病棟を含む）、精神科療養病棟、精神一般病棟での臨床研修

◇ 精神科外来での臨床研修（一般外来、もの忘れ外来、児童思春期外来等）

◇ 公認心理師と共同での認知行動療法も行っている。

- ◇ 財団内にある、多機能型事業所（就労継続支援 B 型事業所）、地域活動支援センター、障害者
 - ◇ 就業・生活支援センターと連携し、地域医療、福祉、就労支援などの経験が可能（多職種連携）
- 2) 措置入院指定病院であり、措置症例も十分経験できる。
 - 3) 京都府南部精神科救急医療システムに参加しており、精神科救急も経験できる。
 - 4) 院内症例検討会や院外での研修、講演会、学会に参加可能である。
 - 5) 以上の豊富な症例を経験でき、精神保健指定医および日本精神神経学会認定精神科専門医の資格所得が可能である。

3. 研修プログラム

A) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理。各年次ごとの到達目標は以下の通りである。

① 1年目

基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し認知行動療法などのカンファレンス、セミナーに参加する。地方会での発表を行い、全国規模の学会に参加・聴講する。

② 2年目

連携病院は幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。基幹病院または連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物・精神療法の技法を向上させる。薬物療法については、1年目で学んだ知識を応用しつつ、幅広い治療薬について基礎的な知識から応用法について知識を深める。精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。地方会での発表を行い、全国規模の学会に参加・聴講し、興味深い症例が見られた場合にはポスター等による発表を行う。

③ 3年目

指導医から自立して診療できるようにする。また、専門分野となるサブスペシャリティを決定していく。基幹病院である大阪医科薬科大学病院で展開されて

いる多くのサブスペシャリティ分野への参加が可能であり、本学で行われていない分野に関しては、指導医より適宜必要な機関と連携することも可能である。加えて、認知行動療法や力動的精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表することも1年目、2年目と同様に積極的に行うよう指導していく。

B) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

C) 個別項目について

① 倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。また、臨床上の様々な場面の方針決定やそれを伝える診療態度などを通じて、現場に求められる倫理性に関する実践的な経験を得る。加えてリエゾン・コンサルテーションを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても他科の医師や関連する医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。担当となる患者については、全ての入院患者で症例検討会(カンファレンス)で発表することが義務付けられている。その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がけることとする。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。このような作業を通じて、科学的な知見を他者に伝える方法を身につけていく。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1)患者関係の構築、2)チーム医療の実践、3)安全管理、4)症例プレゼンテーション技術、5)医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

⑤ 自己学習

D) ローテーションモデル

典型的には1年目に基幹病院である大阪医科薬科大学病院をローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につける。2～3年目にはB1～11の精神科病院をロ

ーテートし、身体合併症治療、難治・急性期症例、依存症症例、児童症例、認知症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。これら3年間のローテート順については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。主なローテーションパターンについて、別紙1に示す。

E) 研修の週間・年間計画

別紙2と別紙3を参照。

4. プログラム管理体制

- **プログラム管理委員会**

委員長： 金沢徹文

医 師： 木下真也

医 師： 久保洋一郎

看護師： 藤澤由里子

精神保健福祉士： 田所 洋志

- **プログラム統括責任者**

金沢徹文

- **連携施設における委員会組織**

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

- **評価体制**

大阪医科薬科大学病院：金沢徹文

藍野花園病院：清水信夫

赤穂仁泉病院：深井光浩

小曾根病院：臼井節哉

新阿武山病院：岡村武彦

新淡路病院：堀貴晴

新生会病院：和気浩三

瀬田川病院：青木浄亮

丹比荘病院：池谷俊哉

ねや川サナトリウム：長尾喜一郎

阪南病院：横田伸吾

藍野病院：川島文雄

稲田クリニック：稲田泰之

水間病院：河崎建人

金岡中央病院：香林正仁

福岡大学病院：川寄弘詔

いわくら病院：岩崎昭憲

長岡病院：畑典男

- **評価時期と評価方法**

3ヶ月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。

研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。

1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。

その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿/システムを用いる。

- **研修時に則るマニュアルについて**

研修実績管理システムに記録して、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

大学病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル(別紙)

- 指導医マニュアル(別紙)

- 研修実績管理システム

研修実績管理システムに記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

- 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

- A) **専攻医の就業環境の整備(労務管理)**

各施設の労務管理基準に準拠する。

- B) **専攻医の心身の健康管理**

各施設の健康管理基準に準拠する。

- C) **プログラムの改善・改良**

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログ

ラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

D) FD の計画・実施

年1回プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。